

在宅医療・介護の“安心”を支える

ちくたくネット

医療機関、訪問看護ステーション、医師会などの医療・介護従事者のみなさんが連携し、自宅で安心して医療・介護を受ける環境づくりに尽力する「多久市在宅医療・介護連携推進ネットワーク（通称：ちくたくネット）」。いくつになっても自分らしく、住み慣れた多久市で過ごすために、みなさんも在宅医療・介護を考えてみませんか？



多久市在宅医療・

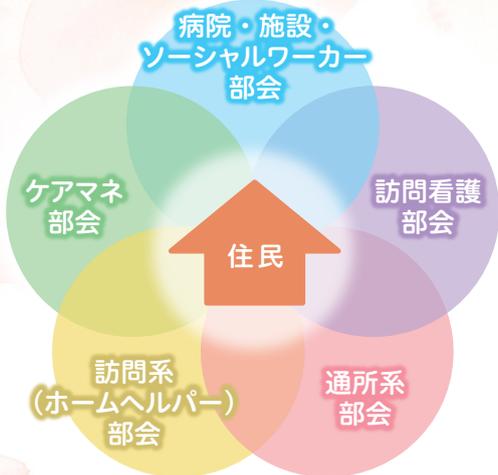
介護連携推進ネットワーク

ちくたくネットとは？

全国的に在宅医療の必要性が高まりつつあった平成23年度当時、令和7年時点で在宅医療を必要とする人は推計29万人にのぼるとされ、病床不足が懸念されていました。さらに国民の20%が自宅での療養が必要になるとも予想された中、日本医師会主導で「在宅医療連携拠点事業」が始まりました。

平成25年度から佐賀県医師会主体となり、小城・多久地区として活動を開始。平成26年度には「多久地区在宅医療連携ネットワーク」が設立されました。医療・介護職員に公募して名付けられた「ちくたくネット」の愛称には、時計がチクタクと進むように少しでも前進しようという思いが込められています。

ちくたくネット



“自分らしい暮らし”を 最期まで支援

「ちくたくネット」は年に一度、代表者50人〜60人ほどが集まる多職種職員研修会と分科会を開いて年間の活動を計画。その年のテーマに沿って、メンバー一体となって取り組まれています。



多職種職員研修会で意見を交わすメンバーのみなさん

これまで職種ごとのスキルアップや在宅看取りなどに注目し、各部会での細やかな会議を重ねるほか、シンポジウムや市民公開講座を開催されてきました。

昨年度は老人クラブ会員や要支援・要介護の認定を受けている人とそのご家族などを対象に「自宅で受ける医療・介護について」のアンケートを実施。最期を自宅で迎えたいと思う人は60%にのぼるものの、医療面の不安や家族への負担を考えると不可能だと回答した人も少なくありませんでした。そうした結果を受けて、今年は一歩踏み込む在宅

医療」をテーマに、民生委員や区長との連携も視野に入れ、多久市の医療・介護制度を市民のみなさんへ周知するために計画を進められています。

「ちくたくネット」のネットワークによって、医療・介護従事者同士は顔見知り以上にお互いを知ることができ、より連携や情報共有を密に行えるようになったそうです。今後も多久市のみなさんが安心して自宅でも医療や介護の支援を受けられるよう活動されます。



市民公開講座で行った劇「自己決定を支えるケア」